



Q 学習林の活用と整備は

A 必要性・整備など研究



ひろよ 日向 清一 議員
(春緑クラブ)

A1 平成7年頃に滝沢村公民館の主催で少年少女自然観察教室が開催されており、最近では滝沢村保育協会による自然観察会が開催されています。
学校による活用は、おこなわれていませんが、今後の整備と活用に関しては、必要性や整備手法等も含め様々な角度から研究してまいります。

Q1 本村には自然学習のための学習林があります。そこにはすばらしい草花が自生しております。まさに、自然あそび、オゾンといった吸える絶好の総合学習の場でありますが、現在はその様相はみえないが、この学習林はどのような目的で設置され、どのような活用・利用がされているか。また、今後の整備計画の考えは。



▲元村保育園自然観察会

Q2 給食費の滞納・未納の実態と今後の回収の方策はどのように考えているか。
A2 収納率は97.38%で昨年同期比較で0.12%下回っておりますが滞納繰越分では支払い督促の推進により収納率は2%向上しております。対策部会においては、口座振替利用促進に取り組み、給食センターとしても関係会議において説明とお願いに努めております。
保護者としての責任感の希薄が

Q3 今後滞納が発生しない対策の考えは。
A3 現年分の徴収においては、早期納入催告文書の通知、学校の協力による催告、会計年度末の一斉催告、夜間の電話・訪問による催告、支払い督促の申し立て等積極的に取り組めます。
そのほか学校だより、PTA会報や各種会合で周知を図り、納付の協力を求めてまいります。



Q 村歴史資源の再確認を

A 古代遺産で観光開発を



▲安倍氏時代の山城「八幡館山遺跡」

Q1 平泉の世界遺産登録が決着を見ないものの、平泉・奥州藤原氏誕生のステップとなった前九年合戦と後三年の合戦では特に岩手が主戦場であり、前九年合戦、最後の戦いは「厨川の柵」と「姫戸の柵」の攻防である。そこに当時、岩手北上を支配していた「安倍氏」が滅び



山谷 仁 議員(新志会)

るのである。
盛岡近郊では唯一滝沢村から、11世紀の遺物は「大金館遺跡」、安倍氏時代の遺跡は「八幡館山遺跡」が見つかっている。
前九年合戦を記録した「陸奥話記」によると「厨川の柵」「姫戸の柵」は7.8丁(約800m)離れており、「大金館遺跡」と「八幡館山遺跡」は約1kmほどの距離であり、両柵の可能性も否定できません。
滝沢村には、今も前九年合戦にまつわる伝承も残されている。滝沢の歴史として、文化、観光も含めて取り上げてはどうか。
A1 安倍氏の居館として注目、大金館遺跡は昭和62年から平成7年の9年間に亘り調査をし、11世紀中葉「安倍」の時代の遺構と遺物が発見され、安倍氏関連の居館として注目されており。また、平泉と同時期の遺構と遺物も小量ではありますが出土しております。

八幡館山遺跡の山城は、山頂部付近に周回する空堀が良好に残っており現在も見ることができ。遺跡の周知も含め、本村の歴史を顧みる観光資源の一つとして取り組んでまいります。

石油等の高騰に併った補助を
Q2 今年も原油の値上りによる、灯油の消費者価格がこれから上がる。1缶2500円を超す状況も考えられる。生活困窮者に灯油補助を考えるべきではないか。
A2 昨年度は、国の特別交付税措置で緊急的に支援を行ったところであり、今年度は国・県の動向を踏まえつつ検討いたします。